

項目	ご意見	対応整理 (主にその項目について検討する回)
適正配置にあたっての考え方	子どもの教育環境を今より良くするという視点を忘れてはいけない。	第6回 「適正配置を行う条件、考慮すべき事項」で検討
	子どもにとってどうだったかを中心に評価をしながら、学校の適正規模を基にした配置を考えていく必要があるのではないか。	
	単に子どもの数だけで考えるのではなく、その地域の中での状況やあり方などを総合的に考えた適正配置を行っていくことが大事である。	
	これまでの地域との関わり、歴史的背景等を十分考慮にいたした上で、地域の了解・協力を得られる形で学校統合を進めるべきである。	
	校区の問題について、どういう広さで学校の配置を適正にするのか、どう編成するのかも慎重に検討を要するのではないか。	
統合効果について	子どもたちは順応性が良く、心配なく統合に適応できる。けんかや意見がまとまりにくいといったような感想もプラスの経験である。	「統合の効果」として整理し、意見提言にまとめる
	統合によって幅広い人間関係が体験できる。	
	子どもたちの数が増えたことによって得られたたくさんの経験は、ものすごく価値のあるものではなかったのか。	
	「けんかが多い」や「まとまりにくい」といったような感想も、今まで体験できなかった新たな価値づくりのプラスの経験である。	
	子どもたちがやりたいスポーツや遊びがたくさんできたことも効果の一つである。	
	様々な意見を聞いて良かったなど、集団としての学びが体験できたことはたいへん重要なことである。	
PTA、地域との連携	地域社会については、連合町内会との連携、人材活用、学校支援ボランティアを促していく工夫が必要である。	第6回 「考慮すべき事項」で検討
	地域の教育力、安全の確保と言う面からは地域の協力は欠かせない。学校と地域の信頼関係を構築することが必要である。	
	統廃合を決定する段階において、PTAや地域の方々も織り交ぜて話し合いをする機会を設けていく必要があるのではないか。	
	統合する際には、教員、PTA、地域の方々などにも配慮していく必要があるのではないか。	
学校施設	施設設備など、子どもたちが学習しやすい教育環境に配慮することも大切なのではないか。	第6回 「考慮すべき事項」で検討
	スクールバス導入や運用については、問題を詰めて今後も慎重に検討を要するべき。	
	学校が閉鎖的にならないように、校内にPTAや地域の方々が集まれるスペースを確保していくことが必要ではないか。	
その他	大学との連携で学生ボランティアを活用し、きめ細やかな指導を補っていくといいのではないか。	第5回 「きめこまやかな教育」で検討
	今後も2年目、3年目と時間をおいて様々な形で効果検証を行うといいのではないか。	今後の課題として第7回以降で挙げる